

ニューズレター 第4号

大阪学院大学外国語学部

外国語学部は実績主義

—夢を実現した先輩に続いて下さい—

2010年3月30日発行

外国語学部の学びのポイント

外国語によるコミュニケーション能力(英語、独語、仏語を読み、書き、聴き、話す力)を最大化することによって、学部生の 1) キャリア形成(教職を含む) 2) 留学 3) 大学院進学をサポートする。



グランドスタッフとして旅をサポート

仲神悠さん(英語学科 2007年卒業、(株)JAL スカイ九州 旅客部国際旅客グループ勤務)



私は2007年にJAL スカイ九州に入社して以来、グランドスタッフとして福岡空港でJALグループをはじめ、外資系カスタマー社の業務を受託し、搭乗

手続き(チェックイン)、搭乗口でのゲート業務(出発)、到着業務を行っています。搭乗手続きと一言で言っても、パスポートの有効期限の確認、渡航先によって異なりますが、パスポートの残存の確認、visaの有無、外国国籍の方であれば、在留資格や再入国許可証の確認、航空券の有効性の確認、ご希望の座席の調整、荷物の預かり(セキュリティー検査済みの確認、貴重品の有無、破損等確認)、機内持ち込み手荷物の液体物の有無、お客様への搭乗口等の案内など、短時間で確認する事がたくさんあります。また、航空会社それぞれの規定、サービスや、コンピューターシステムがありますので、誤案内のないようにどの業務も気が抜けません。短時間で、お客様

と密なコミュニケーションをとり、これからの旅行を安心して楽しく出発していただけるように心がけています。特に親しみやすさ、お客様との会話を大切にし、確認作業の徹底に力を入れています。



空港には、毎日さまざまな国籍のお客様が来られます。業務の中では、国ごと、行き先ごとに必要書類を確認する正確な判断とお客様を待たせないスピードが求められます。更にどのような心遣い

ができるかを考え、自分にできる事を精一杯する姿勢が大切だと思います。

毎日違った出会いがあり、新しい経験ができ、その上お客様のためにいろいろな案を出して、業務にあたっている先輩方の姿を見て、よい刺激を受けながら仕事ができる環境にいられるのは、とても幸せな事だと感じています。

大阪学院大学ではホスピタリティプログラム(現在「ホスピタリティ・ビジネス認定講座」と改称)を受講しました。そこで学んだホスピタリティマインドや、実践的な参加型講義は、現在の仕事をする上で大変役立っています。中でも、「ホスピタリティコミュニケーション(英語表現)」では、空港でのやりとりなどで使う英語を、働く側と利用者側の両方を役割演技を通して学ぶことができました。また、「オーラル・コミュニケーション」の授業では、人前に出て発表することで、相手にどのような印象を与えるのか、どのようにすれば親しみやすくなるのかなど、クラスのメンバーから率直な意見がその場で寄せられ、活発に話し合いました。この発表者とフロアの聞き手が意見を交換する形式の授業は、外から自分がどう見えるのかを知るよい機会でした。今も仕事の中で、お客様により快適な旅をしていただけるように自分の振る舞いに気をつけています。

外国語学部では文法の基礎をしっかりと学ぶ授業や、映画を観ながら日常自然に使われる英語を楽しく身に付けることができる授業などを取りました。けれども伝えたいことが的確に表現できず、もどかしい

思いをすることもまだ時々あります。様々な場面を想定して上手く対応できるように練習して、外国のお客様とも問題なくコミュニケーションが取れるようになることをこれからの目標にしています。

大阪学院大学には何かに興味をもって「やってみよう！」と思った時に、すぐできる環境があると思います。施設やプログラムなど使いこなせば、本当に充実した学生生活が送れるはずですよ。私も放課後の資格講座や、インターンシップ、ボランティア活動、サークル活動などに参加し、貴重な体験をする事ができました。その経験を通して、たくさんのすばらしい先生方や友人に出会うことができ、夢は諦めなければ叶うということを教えられました。学生のみなさん、大阪学院大学で自分の好きな事、やりたい事を見つけ、出会いを大切に、夢に向かって4年間を過ごしてください。

(ナカガミ ハルカ)

青い空、青い海、ハワイ留学で得たもの

伊藤健志さん（英語学科 2010年卒業、全国展開する英会話学校（株）ujeens.に2010年4月より勤務）

今、振り返ると大阪学院大学で過ごした4年間という長いようで短かった期間で僕は大きく成長できたと思います。今年の春から（株）ujeens. という英会話スクールで社会人としての第一歩を踏み出す僕は、自分の好きな英語に携われるので嬉しいという気持ちもあれば、社会で通用するのかという不安も少なからずあります。この気持ちは、大学生として一歩を踏み出す人や、先行きの見えない将来に心配になっている在學生も抱えている感情でしょう。でも、たった一度しかない人生で、大学生になれたことで満足せず、入学してからどんな風にキャンパスライフを過ごすかによって未来はきっと変わってくると思います。

僕自身は高校生の時は英語が全然話せませんでしたが、外国人と話をしてみたいという好奇心で英語学科に入学しました。最初は慣れない授業に戸惑う

こともありましたが、I-Chat Lounge という英語だけでコミュニケーションを図る部屋に空き時間を利用して通い、日本にいながら海外留学している感覚を養うことができたり、スピーキングの楽しさを身につけることができました。（参加無料ですし、まだ利用したことのない人や、行くのに躊躇している人は気楽に行ってみてください。留学生もよく来ていて、日本について英語で教えてあげたり、逆に留学生から母国の文化を教えてもらったり、いい経験になります。）

大阪学院大学には充実した交換留学制度があり、TOEIC か TOEFL の点数が規定以上に達したら誰にでも派遣学生になれるチャンスがあります。社会人になると、留学はなかなかできないので、少しでも興味があるなら英語力を海外で試す絶好の機会ですので、学生のうちにチャレンジした方が良いでしょう。僕も大学3回生の後期にハワイの KCC（カピオラニ・コミュニティカレッジ）に1学期間留学し、留学を通して、英語力は言うまでもなく、人間的にも大きく成長できました。今の自分があるのも、留学中、積極的に周りのアメリカ人学生や留学生とコミュニケーションを取り、たくさんの友達を作り、ボランティアとして Sea Life Park という水族館でボランティアとして案内スタッフをしたり生き物の世話をしたりと、貴重な体験ができたからです。



（ハワイ KCC の駐車場で毎週開かれる朝市）

収穫の多かった半年間を過ごして4回生の前期に帰国しました。他の仲間とは遅れて就職活動をスタートすることになり、最初は焦る気持ちがありましたが、海外に一時身を置いたことで自分の長所・短

所、本当の自分について客観的な理解が深まったので、企業面接でも自信を持って自己アピールすることができました。今春から入社が決まっている企業に応募したのは2月頃でした。面接時に英語に対する情熱と留学経験話をしたら、人事の方に評価され、幸運にも内定をいただきました。

大学というところは、ただ遊んでいる人、真面目に学業に励んでいる人、さまざまな人がいるけれど、「将来の自分」を決めるのは「今の自分」がどんな人に出会い、何をそこで感じ、どう過ごすかで変わってきます。皆さんには、自分の好きなことや、誰にも負けない趣味を持ち、夢を持って暗いニュースの多い現代を変えていけるような社会人になって欲しいのです。今は認められないかもしれないけど、結果は必ずついてくるものなので精一杯がんばって欲しいと思います。 (イトウ タケシ)



(4年次のゼミナール。中央が伊藤さん)

夢を夢のままで終わらせない

平野理紗さん (英語学科 2009年卒業、大阪学院大学勤務)

私は現在、大阪学院大学教務課で勤務しています。教務課は主に、成績管理や履修指導、卒業判定など学生が4年間で卒業できるように全面的にサポートする部署です。他にもさまざまな業務がある中、私は各種資格課程・特別講座の業務に就いており、大学在学中に資格を取得しようとする学生や、専門的な知識を得ようとする学生の支援をしています。

大学3回生の秋に本学の『大学案内』への出演依頼があり、今まで足を運んだことのない部署に行く

機会が多くなりました。そしてその時に初めて、普段知らないところでも大学は連携して新しいものを日々創っている実態を実際にこの目で見て、少しずつ大学運営に興味を持ったことが現在の職に就きたいと思う最初のきっかけでした。その後は、その夢が必ず実現するように受け身ばかりではなく、自らさまざまな分野に挑戦し、また1つでも多くの経験をし、内気な性格から社交的になるよう自分に自信をつけるため努力しました。全力で駆け進んだ結果、その夢が実現して昨年の春から社会人になりましたが、たくさんの方に支えて頂き、毎日よく笑い楽しい日々を送っています。



大学の4年間は今振り返ると自分なりに充実していました。親友にも恵まれ、講義がない日でも大学に行っていたことを覚えています。勉学面では、主に英会話に興味があったため、外国人教員の講義を履修することを心掛けました。しかし、特に高校時代に英語ができたわけでもなく、初めは耳が慣れず苦悩の日々でしたが、大学2年生にもなると「苦悩」から「楽しさ」に変わり、さらに向上心が高まりました。英会話ばかりではなく、外国文化の知識も得たいと思い、ゼミナールで集中的に学び、普段なかなかする機会がないプレゼンテーションにも挑戦しました。

そんな充実した大学生活の中でもただ1つ心残りなのは、大学時代に留学に行かなかったことです。今も外国に興味があるため、いつになるかわかりませんが必ず海外で語学を学ぶことがさらなる私の夢です。そのためにも今日本でできることを考え、実行していこうと思っています。

在学生へのメッセージとして・・・大学時代にしか経験できないことが無数にあります。そのチャンスを必ず自分のものにして下さい。そして、「ひとりひとりの出会いを大切に」これは、私が人生で最も大切にしている言葉です。出会いで自身の考え方、生き方が大きく変わります。どんなに辛いことがあっても無駄な経験はないので前に進んで精一杯充実した大学生活を送って下さい。

(ヒラノ リサ)

きっかけを与えてくれたゼミの授業

村上歩真さん（英語学科 2010 年卒業、2010 年 4 月より日本映画学校にて映画制作を学ぶ）

何かしたいことがあって、大学に進学したのではなく、したいことを探すために大学に進学したというのが僕の場合でした。英語学科を選んだというのも、ただ単に英語を使えるようになりたいというだけで、正直に言うと、将来の夢のために英語が必要だという気持ちもありませんでした。地方から大阪に出てきて、初めての一人暮らしということもあり、朝まで友達やサークルの先輩と遊び、バイトばかりする日々が続く、学業がおろそかになる日々もありました。

なぜ大学に進学したのかということも忘れてそのような日々を過ごしながら、ふと気がつくやうな間に3年生になっていました。4年もある大学生活ですが、あつという間に過ぎていきます。4年“しか”ないのです。英語学科にきて、ろくに英語を話すこともできず、全然勉強していない、更には、将来についても何も考えていない自分に気づきました。それは、3年生の時に受講したゼミナールの授業のおかげでした。とても厳しい先生の下に、留学経験を持つ学生、大学院進学を決めている学生など、やりたいことが明確に見えている学生が集まったこの授業で、今の自分がどのような状況に置かれているのかが見えてきました。

これを機に遅まきながら学業に専念し始めました。

ある授業では他の履修者がおらず、外国人の先生と1対1での授業ということになってしまいました。以前の僕なら逃げ出していたかもしれませんが、あえてチャレンジすることにしました。90分の授業時間内は英語のみです。ろくに話すこともできなかったのですが、これはチャンスだと思い、基本から文法も勉強し始めました。このおかげで、たった1ヵ月ではありますが、アメリカのミシシッピ大学へ留学することもできました。留学中はLAへ1人旅することもできました。



さらに、4年次も3年次と同じ先生のゼミナールを選択し、卒業論文を書くことになりました。その内容というのは、ある小説について自分でテーマを決め、それに基づいて色々と調べていくというものです。生まれて初めての大きな論文ですし、好きにテーマを決めていいというのも逆に難しかったのですが、自分が一番やりやすいテーマで進めていき、ゼミナールの先生のアドバイスのおかげで無事に卒業論文を書き終えることができました。悩み苦しみながら執筆した卒業論文でしたが、「書ききった」ということが達成感と自信につながりました。

このゼミナールとゼミナールの先生のおかげで、僕の大学生活が変わりました。大学の先生というのは、好きな学問分野を永年にわたり探求することを仕事にしておられると思うのですが、その姿勢を見習い、僕も大好きな映画の道に進むことに決めました。「好き」ということだけでそれを生業にできるようになるほどこの世の中は甘くないことはわかっていますが、自分の可能性を信じてチャレンジしたいと思います。

大学においては、先生、先輩、後輩や友達などた

くさんの人と出会います。様々な人がいますが、どのような人であれ、自分にきっかけを与えてくれるものだと思います。それと同様に様々な授業を受講することができます。どの授業も無駄にはなりません。「関係ないだろう」という投げ槍な態度は捨て、大学生活を楽しんでください。

(ムラカミ アユマ)

カナダで見つけた自分

-チャレンジと友と-

大森恵子さん（英語学科 2008 年卒業。本学卒業後、カナダ AISM 音楽学校で学ぶ）

学院大時代の私

ドアを開けたら、そこは延々と広がる青い空、そこから中から聞こえてくる虫の鳴き声 - そんな田園風景だけが視界に入ってくる。最寄り駅まで車で 15 分、一番近くのコンビニまで車で 10 分。徒歩で行く時間など恐ろしくて計ってられない。そんな村から大学を大阪学院大学に決めた。初めての一人暮らしの上、知り合いもいない見知らぬ土地での生活が始まった。中学・高校の時から英語が得意科目だった私が選んだ学部は外国語学部。同じ目的を持った仲間と学び、時にはライバルとして日々友情を深いものにしていった。

大学での英語の授業では、会話を中心としたものから、文法、ビジネス英語、長文読解、英語の検定試験を目的とした授業など、英語を様々な角度から学んでいった。初めは英語という言語そのものに興味があり勉強していたのだが、次第に言語が持つ歴史と、教科書には載っていない現在の言葉の姿（特にスラング）に興味を湧いてきた。知れば知るほど面白いと感じて、学校の授業だけでは物足りなくなり、個人的に本を買ったり、インターネットで調べたりした。そして、私の目は完全に海外へ向くこととなり、卒業を控えて周りの友人が就職活動をするかたわら、私はカナダ行きを決意した。

カナダでの私

大阪学院大学を卒業し、カナダにある AISM 音楽学校 (Ashley Ingram School of Music) へ入学した。Sing & Speak という歌唱と英語の発音を学ぶコースを受講した。私の受講したコースでは歌を歌いながら楽しく発音を学ぶ事が出来るとの事で、他校では学ぶ事の出来ない歌う時の基本練習から、見たことも使ったことのないパソコンソフト、そしてギターまで丁寧に教えてくれた。

英語の発音の授業ではアルファベットだけを 1 週間以上鏡とにらめっこして口を動かし続けた。口のまわりの筋肉が痛くなり唇が乾燥しても、大きな口をあけてひたすら練習したおかげで、「アルファベットの音」を確実に理解し発音できるようになった。

歌の方も最初はどうやったら声が出るのかという基礎から学び、歌う時に使うテクニックや基本スケール（音階）をみっちり体に染み込ませることから始まった。ギターも同様に、全く弾いたことがなかった私は、まずは基本コードを学び、それを弾くと同時に「ギターの指」を作るのに専念した。



(AISMの仲間と。左から2番目が大森さん)

歌を歌うのは好きだったが、チューニングなどをそれほど真剣に考えて歌ったことが無かった私は、友人が言う「もう少し低く」「もっと高く」というアドバイスがショックだった。私にはその少しの違いが全く判らなかつたからだ。特にショーの一週間前などは全員でバックコーラスをするため、各パートに分かれて練習する機会があったのだが、そこでもまだチューニングに自信がなかつた私は仲間の足

を引っぱりたくないという思いと、微妙な音の違いが判らない自分に情けなく思った事もあった。しかしそんな時、私より長く AISM 校で勉強してきた友人から「これは競争じゃないんだから、どんなに時間がかかっても出来るようになるまで目標を見失っちゃ駄目だよ」と言われた。あの一言が、今もずっと私の中に響いている。そのアドバイスのおかげで挫折そうになった私の心はやる気を取り戻した。

Sing & Speak には毎週ダンスレッスンが組み込まれており、ただダンスをするだけではなくパフォーマンスの勉強や顔の表情、歩き方、ポーズなども学ぶ事ができる。このダンスレッスンで私はもう一人の自分と運命的な出会いをした。今までダンスをしたことが無かったどころか、ほとんど興味も持っていなかった私だったが、不思議と踊れば踊るほど自分に自信が付いていくような気がした。そして昔から人前に出れば緊張して、練習の成果が十分に発揮出来ない事が多々あった私だったが、ダンスをする時は、恥ずかしいという気持ちがいつの間にか消えてしまっていることに気が付いた。ほんの一年ほど前までは自分を鏡で見るのも嫌だった私が、今では鏡の前で自分の姿を見ながら「見られる自分」を追求している。鏡の前でポーズをとりボディシェイプや顔の表情を変えることによって、自分の体の良い所と悪い所が見えてくる。そして、それをどのようにしたらより良く見せる事が出来るのか、また、どこをどうやって修正するのかと考えるようになった。ダンスをする体作りのため、そして人々に感動してもらえるダンスを披露するため、今は様々なスタイルのダンスを学び、あらゆるアイデアを自分の中に取り込んでいる。ただ踊るのが楽しいからという理由から始まった私のダンスだったが、今は本気でダンスを学んでいる。信頼できるインストラクターに出会い、ダンサーとしてだけでなく、パフォーマーとしての心得も学んでいる。

なにがキッカケでどんな事が起こるかなんて判らない。よく観察して常に好奇心を持ち続ける事が大切だ。そしてなによりも大事なのが挑戦だ。自分が動くことなくしてチャンスをモノに出来るような甘

い世界などない。このことをカナダに来て痛いほど感じた。そして忘れてはならないのが「仲間」の存在だ。私が「自分」を見つけられたのも、仲間がいてくれたからこそだと思っている。全く見知らぬ土地に来て生活する上で、仲間は私が思っていた以上にかけがえのない存在になった。

結果を恐れず挑戦して行こう。歳や経験、実績など関係ない。大切なのはそれを一生懸命する姿勢だ。

(オオモリ メグミ)

編集後記

未曾有の経済不況のなか、正直なところ、他大学同様本学も就職活動に苦勞している学生が少なくありません。ただ、こういう時こそ語学力、コミュニケーション能力、リーダーシップ等を備えた人材が社会から求められており、その意味で大阪学院大学外国語学部の学生たちは、大勢が在学中に留学を経験し、そこで語学力を磨き、社会や人との繋がりを意識し、そしてコミュニケーションの大切さを認識し、独立心・責任感を養ってきていますので、ほとんどの学生がそれぞれしっかりと自分の進むべき進路を見出して巣立って行っています。留学のためのサポートは、TOEFL、TOEIC テスト対策の授業をはじめ、国際センター、I-Chat Lounge (p.2 の伊藤健志さんの記事を参照) など万全です。また、ホスピタリティ・ビジネス認定講座 (p.1 の仲神悠さんの記事を参照) を履修することで、多くの学生が第一志望の航空業界、ホテル業界、旅行代理店等への就職を決めています。さらに、このような経済状態であるにもかかわらず、早期に内定を獲得し、キャリアアプテーターとして下級生の就職相談にのったりする余裕まで持っている学生もいます。

本日 (3月16日)、今年の秋から海外の大学へ交換留学に派遣する学生の選考結果の発表がありました。今年もまた外国語学部の大勢の学生を送り出すこととなります。どのように成長して帰ってくるのか、楽しみです。

ニューズレター 第4号

発行 2010年3月30日

発行者 大阪学院大学外国語学部

発行者住所 〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目 36-1

(電話) 06 (6381) 8434

(学部 URL) http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo_gakubu/